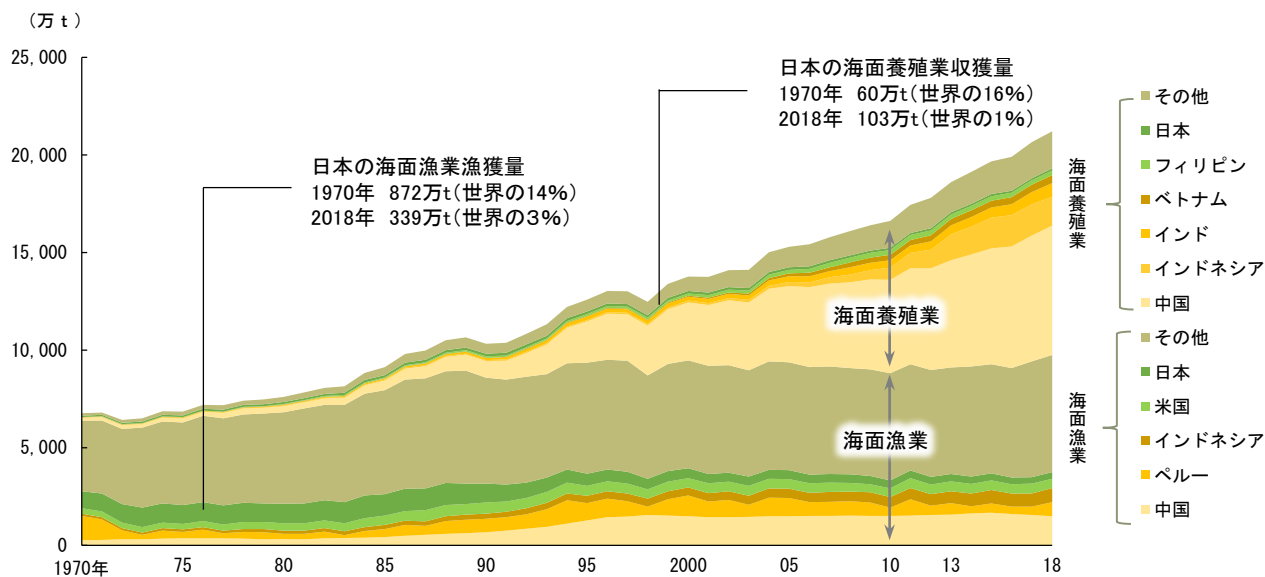


1 世界の生産量と日本の魚介類の需給

● 世界の海面漁業・養殖業生産量の推移

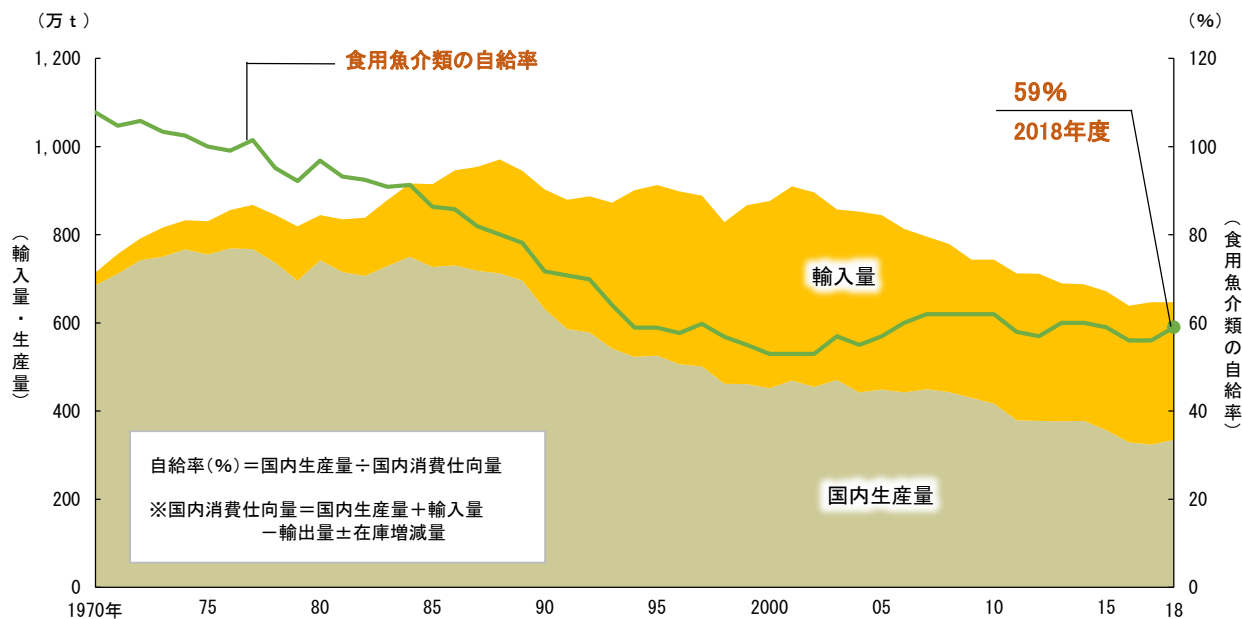


世界の海面漁業漁獲量は横ばい、養殖業収穫量は90年以降急激に増加

世界の海面漁業漁獲量は1990年代以降横ばいで推移していますが、養殖業収穫量は中国を中心として拡大しています。
 世界の海面漁業・養殖業のうち、養殖業の占める割合は、2008年44%、2013年51%、2018年で54%と増加しています。

資料:水産庁「令和元年度水産白書」
 注:FAO「Food balance sheets」(日本以外の国)及び農林水産省「食料需給表」(日本)に基づき水産庁で作成。

● 日本の食用魚介類の自給率等の推移

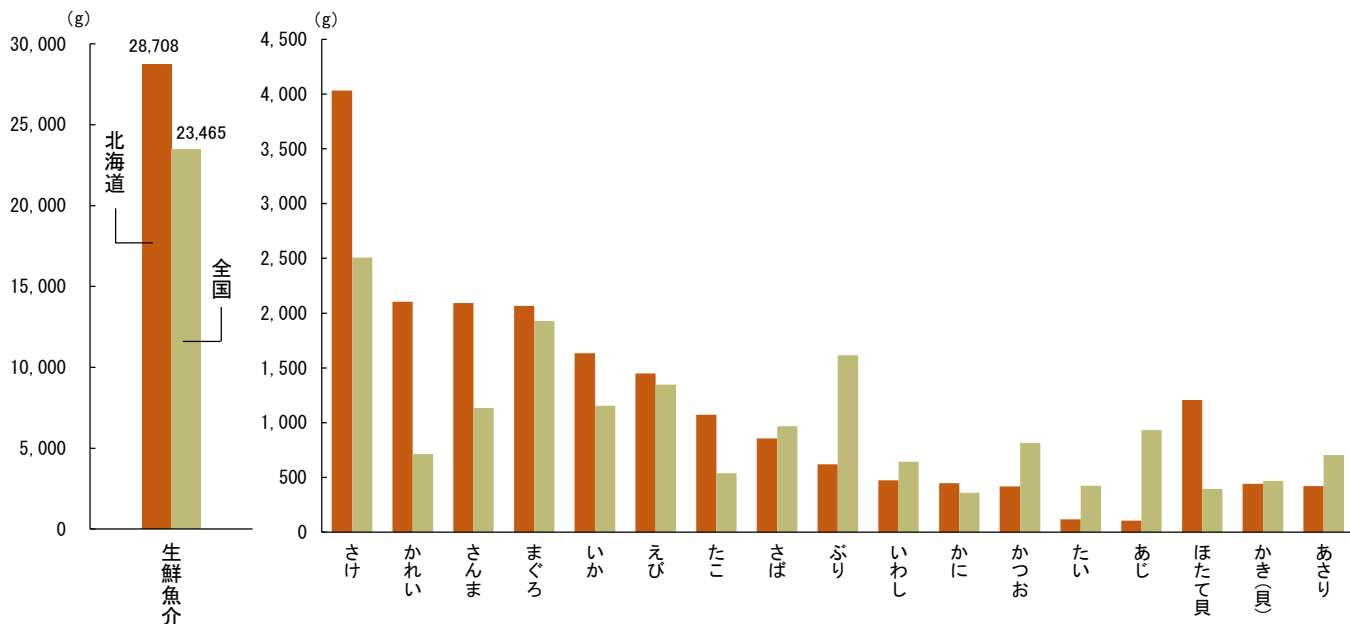


日本の食用魚介類の自給率は59%

2018年度の食用魚介類の自給率(概算値)は、前年度より3ポイント増加して59%となりました。これは、主に国内生産量が増加したことによるものです。

資料:水産庁「令和元年度水産白書」
 注:農林水産省「食料需給表」に基づき水産庁で作成。

1世帯当たり年間の生鮮魚介購入数量の比較(二人以上の世帯、2018年)(全国・北海道)



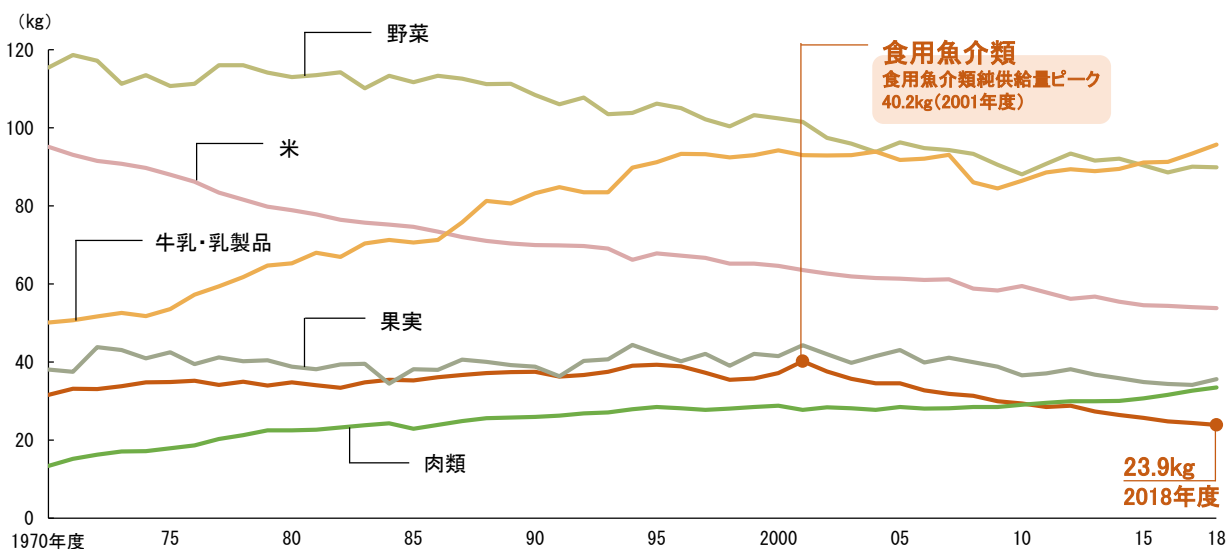
北海道は全国と比べて生鮮魚介の購入数量が多い

北海道の1世帯当たり年間の生鮮魚介購入数量は、全国と比べて多くなっています。また、生鮮魚介別にみると、まぐろやさけ、さんま、ほたて貝などは北海道の方が高くなっていますが、あじやたい、ぶりなどは低くなっています。

資料:総務省「家計調査」

注: 項目の内容については、総務省「家計調査」の収支項目分類による。

日本人の1人・1年当たり食用魚介類純供給量の推移



日本の食用魚介類純供給量は23.9kg

国民1人・1年当たりの食用魚介類供給量は、2001年度をピークに、2010年度は29.4kg、2015年度25.7kg、2018年度は23.9kgと減少傾向にあり、2011年度には肉類を下回りました。

資料:農林水産省「食料需給表」

注: 1 1人当たり供給数量は、純食料を我が国の総人口で除して得た国民1人当たり平均供給数量であり、1人・1年当たり数量(キログラム)と1人・1日当たり数量(グラム)で示している。

2 純食料は、粗食料に歩留まりを乗じたものであり、人間の消費に直接利用可能な食料の形態を表している。